

台湾そば打ち教室とそば事情 視察報告

平成30年6月に全麺協 山本 剛 副理事長が会長を務める「備中そばりえの会」有志一行が、台湾台南市に於いてそば会を開催しました。その際、台湾国内でもソバを栽培して食べていて、「そば」に対する関心が高いことを知ることが出来ました。特に台南市に隣接する彰化縣二林鎮では、町を挙げて「そば」に取り組んでいることが分かりました。そのため、この地でそばによる国際交流ができないかを調査することと、台湾のそば事情を視察し、一般市民の方々の「そば」の理解や知識度合について調査するため台湾彰化縣二林鎮を訪問してきましたので、その概要について報告いたします。 (報告者:専務理事 加藤 憲)



1. 訪問日時 : 平成31年2月13日(水)～16日(土)
2. 訪問地 : 台湾 彰化縣 二林鎮、台北市
3. 訪問者 : 中谷信一 理事長、山本 剛 副理事長、加藤 憲 専務理事

【そば打ち体験指導教室の開催】

- ①日 時 2月14日(木) 午後2時～5時30分
- ②会 場 台湾彰化縣二林鎮南光里儒林路二段 260 号 二林鎮農会・料理教室



山本 剛 副理事長は昨年12月に台湾を再訪問し、彰化縣二林鎮を訪れた際に「そば打ち指導」と「イベントへの出店」を要請されました。台湾ではソバを栽培してそば粉に加工して食べてはいますが、日本式の「手打ちそば」を本格的に調理するための木鉢、麴棒、駒板、そば包丁等の道具は整っていない状況でした。その為、今回の「そば打ち体験指導教室」を開催するにあたり、山本副理事長は手打ち用のそば道具5セットを自前で購入して、事前に二林鎮に送っていました。

そば打ちの体験指導を行う当日は、午前中に体験教室会場の二林鎮農会(日本の「農協」のような組織)の料理教室へ行って、5台の麺打ち台とそば打ち道具をセッティングしました。午後になると、応募で申込みのあった現地の人々が集まり始めました。申込者が全員集まったところで、「そば打ち教室」を開始しました。最初に山本副理事長が、日本から持参したそば粉を用いて、また、加藤専務理事が現地で栽培・製粉されたそば粉を用いてデモ打ちをしました。最初にデモ打ちを行ったのは、参加者に一連のそば打ち作業の流れを見ってもらうためです。参加者のほとんどが「そば打ち」を見るのが初めてなので、興味深く目を凝らして見学していましたが、中には自分にできるだろう



かと不安げに見ている方もいました。その後、デモ打ちをしたそばを茹で上げて、日本から持参した「創味」の汁に鰹節で出汁をとり6倍程に希釈した汁で食べていただきました。みんな「そばがこんなに美味しいものだと初めて分かった」という評価でした。特に、現地の小学生が10人ほど参加していて、異口同音に「美味しい、美味しい！」を連発していました。現地では、そば粉3割、小麦粉7割、幅2.5ミリ程の機械製麺による乾麺(写真参照)が販売され、これを「そば麺」として食しているようでした。しかし、手打ちそばを食べたのは初めての体験であり、食べた方全員が「手打ちそば」の美味しさに驚嘆していました。



デモ打ちと試食会が終わると、そば打ち台1台につき5人が一組となり、現地のそば粉400gと100gの小麦粉による二八そばを水回し、こね、のし、切り作業を交替で体験してもらいました。山本副理事長、加藤専務理事の2名が、5台の麺打ち台を巡回して指導しましたが、手が回らなかったので中谷理事長も自ら指導を行いました。そば打ち指導には25名が体験しましたが、ほぼ同数の見学者がいたので総数50名位の参加者になりました。台湾の方々の明るく明朗な性格もあって、大変にぎやかで盛況のうちに無事に終わることが出来ました。

台湾には「手打ちそば」の食習慣がないので、どの程度「手打ちそば」作業に興味を持ってもらえるだろうかという課題もありますが、今後は今回実施した体験教室や試食によって相当高い関心を持ってもらうことが出来ましたので、継続した指導を実施することによって日本の手打ちそば技術が定着していくものと感じました。

【二林鎮長、現地幹部との交流会】

そば打ち教室が終了後、同町の台湾料理レストランで、二林鎮長 蔡詩傑氏、同農会総幹事 邱士平氏、二林鎮農業区発展協会執行長 吳敏賢氏、壽米屋企業有限公司総経理 陳肇浩氏、二林鎮公所主任秘書 黃忠堯氏等、現地の有力者による歓迎交流会を開催していただきました。二林鎮は水田地帯で米作が主要な生産物ですが、台湾は3毛作なので、2月中旬～3月上旬に「田植え」を行ない「収穫」は6月頃、直後に2毛作目「田植え」を行って10月に「収穫」し、その後に11月中～下旬に「ソバ」を播種して1月～2月に収穫するというサイクルで農業が営まれているとの事です。

私たちが現地に行った時に農場では、代掻きや田植え作業が行われていました。この二林鎮では、約60戸の農家が約100ha の農地でソバ栽培をしていて、その収穫量は平成27年に40トン、平成28年



が45トンだったそうです。その為、そばの消費拡大が大きな課題になっているということでした。これを解決するには、日本の手打ちそばの打ち方を取り入れて、日常的に手打ちそばを食べる食生活へと変えて行く必要があるとの事です。しかも、そばは「健康食」であり、住民の健康管理にも有効であるということから、二林鎮としてもこの政策を取り入れて行きたいということでした。全麵協としても、そば食の国際的な普及拡大に貢献することが重点項目ですので、今後も出来る限りの支援をするということにしました。

【鹿港老街の見学】



鹿港老街の見学

台湾彰化縣は観光的には余り見る所が少ないようですが、台湾海峡に面している海岸に古くから港町として栄えた「鹿港老街」という伝統的町並みが残っている埠頭街が見どころということでした。2月15日の午前中に、ホテルから約1時間車を走らせて見学しました。日本では木曾の奈良井宿のように、文化財保護法によって「重要伝統的建造物保存地区」として保存されていますが、これと全く同じように古い家並が残っていて、その家屋では人々が生活をして保存されている地域でした。400年も続いているとい

うことでしたが、海運業の盛んな時代には繁栄していた当時は忍ばせるものがありました。古い街並みの中には土産物売る店が立ち並んでいて、その中に90歳の店番をしていたおばあさんが、流調な日本語で話しかけてくれました。おばあさんによると、日本が台湾を統治していた頃に国民学校で日本語を学んで、今でも日本語が話せるということでした。とても親日的で、私たちに親しみある笑顔で語りかけてくれましたので、私たちは心温かな気持ちになりました。



【彰化縣長(知事)との面談】



彰化縣長との面談

彰化縣は台中市に隣接する人口130万人で、2市6鎮18郷を管轄しています。日本でいえば山口県、愛媛県、奈良県、長崎県と同規模の行政自治体です。縣長とは午後3時から30分間の面会アポイントが取っており、彰化市に所在する県庁に赴きました。担当の方に縣長面会室に案内していただいたところ、副縣長洪榮章、民生處處長賴致富、同自治行政科科長蔡欣達、同科員林妙紅 農業處處長陳炳森、秘書李世傑氏が待っておられて私たちに温かく出迎

えていただきました。間もなく王恵美 縣長が来られましたが、平成30年12月の選挙で当選されたばかりで、就任して間もないところでしたが、堂々とした立ち振る舞いでした。女性の縣長で年齢は51歳、学校の先生をされていたという経歴をお持ちで、精悍で頭の回転が速い方でした。早速、私どもが彰化縣を訪れそば打ち指導やそばに関する指導をしてくれたことに対して感謝の意を表されるとともに、前記した通り彰化縣は台湾では田舎の地域であり、主要産業は水田での稲作がメインであること。耕地面積は4万 ha あり、これを



いかに活性化して行くかを検討しているところだとのこと。ソバは二林鎮で栽培が行われているところなので、日本との連携でこれを益々盛んにして行きたいとの事でした。現在、県内では「花博」が開催されているので、これらをご覧になって行っていただきたいということも話されており、さらに今後も交流を続けて行ってもらいたいということでした。

次いで、中谷理事長が全麵協の概要を説明するとともに、今回訪台した目的について申し上げたところ、縣長様はじめ皆さんは私どもの訪台の目的等について深く理解していただいたようでした。今後も全麵協とそばを通じての交流を進めて行くこととして、本年12月7日・8日に二林鎮で開催されるに「市民マラソン大会」のイベントには是非参加したいということを申し上げました。王縣長様との面談予定は30分でしたが、20分も時間超過してまで私たちとの面談に対応していただきました。



【第一名品店股份有限公司との交流】



二林鎮における「そば体験教室」を見学していた中に、当地の出身で台北市内で世界の名品を輸入して販売する「第一名品店股份有限公司」副総経理 張國龍氏がいました。私たちのそば打ちに大変魅力を感じたということで、同会社の董事長(社長)王義郎氏に報告したところ、私たちが帰国する前に台北市内の本店に立ち寄ってほしいという申し出がありました。この申出を受けて同公司本店に立ち寄りましたところ、同所では日本から輸入した素麺や鰹節、昆布などを販売すると同時にこれらのものを使った料理教室を開いているので、その中で「そば打ち」を取り入れたいので是非とも協力願いたいという要請がありました。また、3月5日に日本に行くので、東京西浅草にある「全麵協 研修センター」を5名で視察したいとの申し出がありましたので、これを引き受けることにしました。

【今回の視察結果】

今回の「そば事情の視察とそば体験教室の開催」については、上記した通り台湾の方々にはそば打ちの素晴らしさや全麵協の活動を良く理解していただけたものと思います。その成果として、「そば打ち体験教室」参加者の中に旅行会社に勤務している方がいましたが、会社で「全麵協会報 第7号」を見せて上司に報告したところ、高校生の海外体験視察研修旅行の中に「そば打ち体験」を取り入れようということになりました。今年5月21日(火)に全麵協 研修センター於いて、15名の高校生にそば打ち体験をさせたいので、是非とも受け入れて欲しいとの申し出がありました。

さらに、今年12月7日・8日に二林鎮で市民マラソン大会が開催され、その会場におけるそば店の出店を現地では心待ちにしているとのこと。これに応えるため、平成31年度 全麵協海外視察研修の一環として実施する方向で計画を進めることとしたいと思います。ただ、今回は、旅行日程の関係で時間取れないため、マラソン大会の会場や出店場所の確認が出来ませんでした。また、ソバ畑の栽培場所についての視察が出来なかったのが悔やまれますが、既に山本副理事長が現地と折衝しているところですので、実りある海外研修・国際交流になるものと大いに期待されます。